

令和4年度高萩清松高等学校自己評価表

目指す学校像	◎自主自律の精神を重んじ、知徳体にわたる「生きる力」を育成する。 ○自ら学び…生涯にわたって学び続けようとする姿勢 ○自ら創り…知識や情報の中から知恵を絞り新たなものを生み出す探究心 ○自ら拓く…人生を切り拓く強い意志		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>成果は、教職員が様々な教育場面で個に応じて適切な指導をしていることから基本的な生活習慣の定着が進んでいることである。また、一人ひとりに寄り添った丁寧な指導により、希望進路の実現を図ることができている。</p> <p>課題は、主体的に判断し、行動する力とコミュニケーション能力の向上、基礎学力の定着である。また、様々な資格の取得や部活動加入率が高められるよう、今後も継続して取り組む必要がある。</p>	① 自主自律の精神と豊かな心の育成	<p>ア 基本的な生活習慣及び社会的ルールや社会生活に必要なマナーを身につけられるよう支援する。</p> <p>イ 「挨拶」をする・「時間」を守る・「身だしなみ」を整えるということを徹底し、規範意識を高め、自ら進んで行える礼儀正しい誠実な生徒の育成に努め、地域から信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>ウ 奉仕的活動等への参加を積極的に推進し、豊かな人間性を養う。</p> <p>エ 「道徳」及び「道徳プラス」の指導を工夫し、他人を傷つけず、思いやりのある豊かな心を育成する。</p> <p>オ 生徒一人ひとりの個に応じたきめ細かな指導に努める。</p>	B
	② 将来の夢や希望を実現するキャリア教育とICTの推進	<p>ア 生徒が将来の夢や希望を実現できるよう、進路に応じた基礎学力の定着や資格取得に力を入れる。</p> <p>イ 進路実現に向け、家庭での課題を課したり、提出の期限厳守を徹底したりして、自宅学習を支援する。</p> <p>ウ 授業「産業社会と人間」等を通して、キャリア・パスポートを活用し、1年次からキャリア教育を実施することで、自ら進路を選択し、目標を決定できる力を育成する。</p> <p>エ ICTを活用し、主体的に学ぶ姿勢と課題発見、課題解決能力を育成する。</p>	B
	③ 他者との協働による特別活動の実践とシティズンシップ教育の推進	<p>ア 部活動への積極的な参加を奨励し、主体的な活動で個性を伸ばし、さらに充実した学校生活を送らせる。</p> <p>イ 学校行事への積極的・意欲的な参加を促すとともに、ホームルーム活動、生徒会活動等を充実させ、達成感を味わわせ、連帯意識を培う。</p> <p>ウ シティズンシップ教育を通して、自分たちの課題について、自分たちで話し合い、自己決定する力を育成する。</p>	B
	④ 働き方改革とコンプライアンスの徹底	<p>ア 伝統として続いている学校行事は見直しを図る。</p> <p>イ 仕事の生産性を高め、業務の効率化に努める。</p> <p>ウ 教育者としての自覚をもち、服務規律の確保に努める。</p>	A
三つの方針		具体的目標	
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ○ 主体的に学ぼうとする姿勢と新たなものを生み出す探究心を育み、自己の人生を切り拓き、地域社会に貢献できる人材の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ○ 基礎学力向上を目指しつつ、生徒の学習ニーズに対応した教育課程による、多様な進路希望の実現	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ○ 普通高校と専門高校の長所が一つになった「総合学科」の本校において、各系列との適性を見極めながら、自らが望む将来を自ら創ろうとする生徒	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題			
教科	国語 基礎学力の向上	・漢字を反復練習することにより、書き力の定着を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを早めに使用できるとよい。 ・ICTの効果的活用の実践 ・観点別評価の評価基準の設定 ・各種検定の対策の充実 			
		・読書を通して語彙を豊かにし、一般的な読み取る力を身につける。	B					
		・感想文や意見文など文章を書く機会を多くすることにより、文章表現力を高める。	B					
		・スピーチやディベートを行い、「話すこと・聞くこと」の能力を養い、コミュニケーション力を高める。	C					
	個に応じた指導の工夫と改善	・生徒の能力と実態にあった年間指導計画を作成し、それに沿った学習指導を実践する。	A	B				
		・授業内容を生徒の能力と実態に合わせ、達成感や充実感を味わえるように工夫改善する。	B					
		・電子黒板やIT機器等を有効活用して、生徒の理解力が高まるように努める。	B					
		・小テスト等を通して学習の理解度を確認し、学力向上に生かす。	A					
	成績不振者や欠課の多い者への適切な指導	・考査の結果の悪かった者には、次回に向けての必要な補充指導を行う。	B	B				
		・欠課時数の多い者には、担任と連携して生活改善の指導を行う。	A					
	地歴 基礎的な学力の向上	・文章等で生徒が表現する機会を通して、理解力・表現力を高める。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら進んで課題を見つけられるような飼料の提示 ・ICTを活用した学習の一層の推進 ・成績不審者へのきめ細やかな指導 ・新学習指導要領の円滑実施 		
		・プリントや資料・映像、ICTなどを有効に活用して、学習内容の理解を高める。	B					
		・提出物やノートを確認し、授業への集中力と理解度を確かめる。	A					
		一人ひとりの能力に応じた指導の工夫と改善	・授業内容を能力と実態に合わせ、興味関心を持つように工夫改善する。				B	B
			・講義内容を精選し、興味関心を高める教材を利用する。				B	
・自ら課題を見つけ、解決する力を養うためにアクティブラーニングの手法を取り入れ、活用する。			B					
成績不振者や欠課の多い者への適切な指導		・考査の結果の悪かった者には、その時点で必要な補充指導を行う。	A		A			
	・小テストや提出物等により、生徒のつまづきを確認し指導する。	A						
公民 基礎的な学力の向上	・文章等で生徒が表現する機会を通して、理解力・表現力を高める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら進んで課題を見つけられるような飼料の提示 ・ICTを活用した学習の一層の推進 ・成績不審者へのきめ細やかな指導 ・新学習指導要領の円滑実施 				
	・プリントや資料・映像、ICTなどを有効に活用して、学習内容の理解を高める。	B						
	・提出物やノートを確認し、授業への集中力と理解度を確かめる。	A						
	一人ひとりの能力に応じた指導の工夫と改善	・授業内容を能力と実態に合わせ、興味関心を持つように工夫改善する。			B		B	
		・講義内容を精選し、興味関心を高める教材を利用する。			B			
		・自ら課題を見つけ、解決する力を養うためにアクティブラーニングの手法を取り入れ、活用する。			B			
	成績不振者や欠課の多い者への適切な指導	・考査の結果の悪かった者には、その時点で必要な補充指導を行う。			A		A	
・欠課時数の多い者には、担任と連携して生活改善の指導を行う。		A						
数学 基礎的な学力の向上	・基礎的な計算能力を養うための教材を作り、計算力を高める。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや電子黒板を用いた、更なる基礎的学力の向上 ・生徒の進路や習熟度に合わせた、個別対応の充実 ・観点別評価における評価方法の確立 			
	・TTの実施やICTを活用することで、基礎学力の向上に努める。	A						
	希望する進路の実現	・就職対策のため授業規律を意識した指導をする。				B	B	
		・資格取得のための課外、実力養成のための課外授業を設ける。				B		
		・大学進学や専門学校、就職など生徒のニーズに合わせた進路別の授業を展開する。				B		
	指導方法の検討と体制の確立	・教科会を開いて情報交換を行う。				B	B	
		・評価方法及び授業の進め方の検討をする。				B		
	成績不振者への指導	・考査の点数が低い生徒に対して、必要に応じて定期考査前に個別指導を行う。		B		B		
		・習熟度別の講座を作り、少人数で実施し、基礎力の定着を図る。		A				

		・授業に集中していない生徒に対して、担任と連携を取りながら学力の向上に努める。	B		
理科	科学的な探究力の向上	・観察実験等を通して、科学的な思考力を身に付けさせる。	B	B	・タブレットを活用した授業計画の立案 ・成績不振者に対する指導の徹底 ・観点別評価における評価規準の作成、授業計画の立案
		・ICTを効果的に利用することで、科学的な自然観を身に付けさせる。	A		
	進路実現に向けた指導の充実	・生徒の進路希望に応じた指導を実施し、生徒の進路実現に努める。	B	B	
		・少人数制の授業により、生徒一人ひとりの能力に応じた指導方法を研究する。 ・授業の中で演習問題を行い、希望する進路に対応できる学力を身に付けさせる。	A B		
成績不振者や欠課時数が多い者への指導	・担任と連携し、生徒の学力向上及び学習態度改善に努める。	B	B		
体育	基本的な生活習慣の確立	・集団行動を通して、協調性を高め、規律ある行動がとれるようにする。	B	B	・ICTを活用した授業の実践。
		・5分前行動を徹底させるため、教員が率先して5分前行動を行う。	B		
	基礎的な体力の向上	・生徒の能力に応じた年間学習計画の中に体力を高める運動を組みこむ。	A	B	
		・体を動かすことへの興味関心を持たせる為、授業の工夫改善を行う。	B		
	生徒が興味関心を持つ指導方法と研修体制の確立	・教材研究に励み、良いものがあれば全体で指導ができるような体制をつくる。 ・評価は、技能・関心・自主性等を加味し総合的に行う。	B A	B	
成績不振者・欠課時数の多い者への指導	・成績不振者へは、担任と連絡を密にし、補習授業などを行う。 ・欠課時数の多い者には、学年、担任とともに生活改善指導を行う。	A A	A		
芸術	基礎学力の向上	・個に応じた指導の充実を図る。(個別課題の設定と個人指導を行う。)	B	B	・ICTを活用した授業を実践する。 ・欠課が多い生徒について、担任と連携して改善しているよう指導する。
		・生徒の感性を育てるための教材を研究し、生徒に応じた教材の精選と開発を図る。	B		
		・芸術を生涯にわたって愛好する心情を養うために、鑑賞の機会を増やすとともに、演奏会や展覧会等の情報を随時生徒に提供する。	B		
	個々の能力を伸ばすための指導の工夫と改善	・個別創作やレッスンを通して生徒の能力を把握し、それぞれに合わせた課題や教材を設定する。	B	B	
		・作品を完成させる喜びや楽曲を演奏できる喜びを体験させるために、生徒理解に努め、生徒の心情を十分に反映した作品ができるように面談や話し合いを行い、創作活動や演奏活動を援助する。	B		
		・芸術の歴史や知識を学び、より深く芸術に親しむことのできる生徒を育てるために、ワークシートやプリントを工夫し活用する。	B		
		・実技試験や作品発表会を行い、生徒自身の自己評価だけでなく生徒同士の相互評価を行い、よりよい創作活動へと意欲を高められるようにする。	B		
指導方法の改善と評価	・芸術科による授業参観を行い、教科会における授業研究を行う。	C	B		
	・評価は授業に対する興味・関心・実力テスト・作品・レポート等を総合して評価する。	B			
成績不振者等の指導	・欠課の多い生徒については、担任と連携して改善できるように指導する。	B	B		
	・作品が提出できない生徒や表現活動ができない生徒については、生徒と面談をして意欲を高められるように補充指導や個に応じた課題を設定して指導する。	B			
外国語	基礎学力の向上・定着	・定期的に課題を与え、学習方法を学び、基礎を身に付けさせる。	B	A	・ALTの活用をどうするか (来年度は、英語会話が開講されないため) ・英語検定受検者をもっと増やす
		・中学で学んだ文法事項の復習や新出事項の反復練習を通して、その定着を図る。	A		
	実践力やコミュニケーション力を付ける	・英検取得を奨励し、希望者を対象に補講を実施するなどして、英検合格者を増やす。 ・ALTを活用し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養う。	B B	B	

		・ICTの活用を多角的に行い、学びの幅を広げ、英語や異文化に対する知識・理解を深めさせる。	A		
		・希望者課外等を通じて、上級学校受験にも対応できる応用力を付けさせる。	B		
家庭	基礎・基本の定着	・学習ノートや学習プリント、ICTを活用してわかりやすい授業づくりに努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・設備等、実習環境の改善。 ・技術検定合格率アップ。 ・生徒が発表する機会を増やしていくこと。
		・提出物の確認を通して学習意欲を高めるとともに、つまずきに気づき支援する。	A		
	技術力の向上	・実習する時間を十分に確保し、実習助手と協力してきめ細かい指導を心がける。	A	A	
		・技術検定の受験者全員合格を目指す。	B		
課題解決能力の育成	・ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、家庭や地域の生活を充実・向上させる力を育てる。	B	B		
情報	情報リテラシーの育成	・情報的な見方や考え方を養う上で基礎となる態度、技能、知識を身につけさせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習ツールを用いての授業展開の実施。 ・情報リテラシー教育の徹底。 ・情報モラル教育の早期実施、インターネット及びSNS関係の生徒事故の未然防止。
		・学習意欲の高い生徒や目標意識が明確な生徒に対して、発展的な学力をつけさせる。	B		
		・学習意欲の低い生徒に対して、分かりやすく丁寧な指導を行う。	A		
	一人ひとりの能力に応じた指導の工夫と改善	・自らテーマ(問題意識)を持ち、自ら学び、自ら考える主体的な学習態度に結びつくような教材作りと探究的な授業展開の工夫を行う。	A	A	
		・定期試験は、普段の学習成果があらわれるように工夫して出題し、特に情報モラルの分野を盛り込む。	B		
	指導方法の改善と研修体制の確立	・生徒が満足できる授業の実践及び工夫改善のため、研修の実施に努める。	B	B	
・評価は、授業態度、提出物、定期試験、検定試験等をふまえて総合的に行う。		A			
適切な情報端末の使用についての指導	・生徒にスマートフォンなどの情報端末の適切な使用方法を指導し、生徒の生活に影響が無いように努める。	A	A		
工業	「技術者」としての育成	・「安全第一」の精神を浸透させ、「ゼロ災害」に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年々、学力低下が著しい生徒に対する対応。 ・工業人として社会に貢献できる人材育成。
		・安全靴、作業服をきちんと身に付けさせ、社会生活に必要なマナーを身につけられるよう支援する。	A		
		・報告書の期限とその重要性を理解させ、主体的に判断し、行動する力の向上を図る。	A		
		・実習を欠席した生徒に対しては必ず補習を実施する。	A		
		・生徒が将来の夢や希望を実現できるように、資格試験の受験率・取得率の向上を図る。	A		
	基礎的な学力の向上	・ICTや補助教材を活用し、基礎学力の定着と主体的に学ぶ姿勢の充実を図る。	C	B	
		・他者との協働による課題解決を目指し、話し合いや試行錯誤の上手な取り組みを行う。	B		
	指導方法の改善と評価	・教科に関する研修会を実施して授業研究及び教材研究を行う。	B	B	
・評価は、テスト点、課題提出状況、授業態度、報告書提出状況、出席状況等を観点別に評価し、総合的に判断して行う。		B			
商業	基礎的な学力の向上	・各種資格試験への取り組み姿勢や意欲を高めることを通して、問題解決能力の育成を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の環境でICT教育をどのように普及させるか。 ・卒業後の進路に向け、資格取得の充実を図る。 ・検定試験受験者の増加を図るための呼びかけを積極的に行う。
		・ビジネス学習を通して社会通念やビジネスマナーの定着を図る。	B		
	ひとり一人の能力に応じた指導の工夫と改善	・生徒の実態や能力に合わせた学習指導の進度を工夫し、指導効率を高める。	B		
	専門的な知識・技術の習得	・文書作成や情報処理などの学習を通して合理的に考え、処理していく能力を身につけさせる。	A		
福祉	基礎学力の向上	・社会福祉や介護福祉の理念、意義など基礎的、基本的な知識・技術を総合的に指導し基礎学力の向上に努めるとともに生徒が主体的に学習に取り組む態度を養う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験に向けた取り組みを夏休み前から開始する。 ・実習報告を各自のタブレットで作成できるように指導する。
		実践的な態度を身に付ける	・介護実習や探究的な学びを通して、実践的な態度を身に付けさせる。		
		校外での介護実習における他者との協働を通して、実践的な介護技術、態度を身に付けさせる。	B		

	個別に応じた指導の工夫・改善	・生徒が社会福祉や介護福祉に興味・関心を持つことができるように、個々の生徒の能力と実態に合わせ、丁寧でわかる授業の展開に努める。また、介護福祉士国家試験に関連させた授業実践に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の確保 ・生活コースの教育過程、年間指導の見直し。 ・観点別評価の検討 ・介護ロボットなど最新の介護技術・理論に触れる機会を積極的に作る。 		
		・ICTを活用し、主体的に学ぶ姿勢と課題発見、課題解決能力を育成する。	B			
	専門的な知識・技術の習得	・社会福祉や介護福祉について、医療・看護の分野などから専門的な知識・技術を習得できるよう配慮する。	B			
		・最新の介護技術・理論について研究し、授業展開につなげる。	C			
	介護福祉士国家試験の合格	・介護福祉士国家試験受験、合格に向けた働きかけを積極的に行う。	A			
		・定期的に介護福祉士国家試験対策課外を実施し、知識・技能の向上に努める。	A			
	総合	自ら学ぶ姿勢の育成	・何のために学ぶのか、一人ひとりに目的や意義を考えさせる。		B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、就業体験、上級学校見学、地域ボランティア等が中止となり、幅広い体験の機会を設けることが難しかった。次年度は、代替案を考え、可能な範囲で実施していく。 ・生徒の主体性を引き出し、生徒が各活動の企画、運営、実施、振り返りが実施できる体制を整えていく。
			・幅広い選択科目を用意し、生徒自らが選択した学習に取り組ませる。		A	
			・資格取得に向けた働きかけを積極的に行う。		A	
		コミュニケーション力の育成	・コミュニケーション力の向上を目指し、相手の話を聴き主体的に判断し、行動する力を養う。		B	
			・講話や説明会、授業等で話を聞く場合に、メモを取る習慣付けを徹底させる。		B	
			・ICTを活用し課題研究や研究発表、実習・体験学習、プレゼンテーション等を経験させ、表現力を育成する。		A	
マナー教育の充実	・清潔感のある制服着用を徹底する。外部講師の講演を行い、意識付けをはかる。	B				
	・挨拶だけでなく、時・場所・場面における言葉遣いを指導する。	A				
心の教育の推進	・就業体験等を通して、社会人になったとき必要不可欠な「我慢する心」を育てる。	B				
	・地域のボランティア活動を通して、奉仕の精神・達成感・自己肯定感を育成する。	B				
校務分掌	教務	円滑な教育活動の実践	・計画・実施・反省を繰り返し行いよりスムーズな学校運営を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も受検者数を増やす取組が必要である。魅力ある学校を伝えるため、学校全体で考え、実施していくべきである。 ・日々の出欠、定期試験後の成績の入力に関して、先生方の理解度が不足している点があった。年度当初にマニュアル配付及び研修会を行いたい。 ・突発的年休、出張等の授業変更を互いに確認し、全体でフォローしていくようにしたい。 	
			・教職員が円滑に連携し合える環境づくりに心がける。	B		
	授業改善の推進	・授業公開・授業参観の機会を積極的に設けることで授業改善を行い、丁寧でわかる授業の展開に努める。	B			
		・教科横断的な視点から探究的な学びを取り入れ、生徒が将来の夢や希望を実現できるようキャリア教育とICTの活用を推進する。	B			
		・シティズンシップ教育を通して、自分たちの課題を見つけ、話し合い、自己決定する力を育成する。	C			
	授業時間の確保	・出張や年休時の授業交換を励行し、自習時間の解消に努める。	B			
		・学校行事の能率的運営を図り、授業時間数を確保する。	B			
	教育課程の編成と運営	・生徒の進路希望に合わせた効果的な教育課程を研究し、編成する。	B			
	校内諸データの整備及び活用	・学校全体のデータ管理とデータ処理を行い、教育活動への活用を支援する。	A			
	校内研修の充実	・人権教育等についての教職員の研修会を充実させる。	B			
		・研修の成果や情報を教員間で共有し、ICTを活用した報告会の充実を図る。	B			
	広報活動	・中学校や地域関係機関に対して、本校の取り組みを積極的に伝え、理解と連携を図る。	A			
		・学校案内、学校便り、ハイスクールガイド、ウェブサイト等の充実を図る。	A			
	ICT教育の活性化	・授業での主体的な学びに、ICT活用を推進する。	A			
・いつでも、どこでも、だれでもICTを活用できるよう、情報機器の整備、拡充を図る。		B				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・シティズンシップ教育をとおして、日常生活の様々な場面で主体的に考え、行動できるように支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・立哨指導等の継続的な指導。 		
		・挨拶の励行を人間生活の基本ととらえ、日常的・継続的に指導する。	A			

		<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の様々な場面において、み(身だしなみ)「制服の正しい着用等」・そ(掃除)・あ(挨拶)・じ(時間を守る)の大切さをよく理解させ、自ら進んで行えるようにする。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・SC等、特別支援教育・教育相談の充実。 ・下校指導の徹底。
		・3年間をとおして、統一した頭髪服装指導を継続することにより、社会で通用する身だしなみとマナーの習得に努める。	B		
		・欠席・遅刻・早退をなくし、将来に夢や希望を持ち、前向きに学校生活に取り組めるように努める。	B		
		・校舎内外の環境整美に努め、きれいな学習環境で落ち着いて学校生活を送ることができるように努める。	A		
		・SHRや年次集会、学校行事等をとおして、継続した生活指導を行い、集団の一員としての帰属意識・個々の規範意識を高める。	B		
	安全で安心な学習環境の確立と問題行動の未然防止	・問題行動や交通事故の未然防止のため、通学路や校内の巡回指導を継続的に行う。	B	A	
		・心の教育を推進し、他者を思いやる心を育み、いじめや暴力を根絶し、安心・安全に生活できる健全な学習環境をつくる。	A		
		・貴重品や自転車等の盗難防止と自己管理の徹底に努める。	A		
		・盗難防止のため、移動授業時の教室施設や貴重品袋の活用を徹底する。	B		
		・薬物乱用防止・交通安全・性教育・情報モラル教育等を行い、生徒の意識高揚を図る。	B		
		・スマホ等の利用について、適切な利用法を啓発し、いじめやからかい、個人情報の流出等、SNS利用に関する問題行動の未然防止に努める。	A		
	生徒の心に寄り添ったきめ細かな指導	・日常の対話を重視して生徒理解に努め、年次と生徒指導部が連携して指導できる体制を構築する。	B	A	
		・家庭との連絡を密に図り、生徒ひとり一人の心に寄り添ったきめ細かな指導を行う。	A		
	地域との協力による生徒指導の推進	・家庭・近隣高校・関係機関と連絡を取り合い、地域全体で子どもたちを見守る体制をつくり、問題行動や事故の未然防止に努める。	B	B	
	特別な配慮を必要とする生徒への支援体制づくり	・特別な配慮を必要とする生徒に対し、組織的な支援体制を整え、教職員で共通理解を持ちながら指導できる体制をつくる。	B	B	
特別活動	学校行事を通しての帰属意識・協調性の涵養	・学校行事への積極的・意欲的な参加により、達成感と所属感を味わわせる。	A	B	
		・学校生活の基盤としてHR活動を充実させ、他者との心のふれあいを深め、協調性や連帯意識を培う。	B		
		・学校行事を通して、自主的・主体的な企画・運営のできる生徒会役員を育成する。	B		
	部活動の振興と活性化	・1年次生全員に部紹介・部体験等を実施し、部活動への積極的加入を勧める。	A	B	
		・中学生への体験入学における部紹介や、中学校訪問やHP等で部活動のPRを積極的に行う。	B		
		・部活動に必要な施設設備の充実を図る。さらに、外部講師を活用した顧問研修会の実施についても検討する。	C		
	生徒の自主的・主体的な活動の推進	・自主的な部活動を推進していくために、顧問が適切な指導を行う。	B	B	
		・ボランティア活動への参加を広く働きかけ、地域を構成する一員であることを自覚し、地域社会に貢献する心を育む。	B		
		・ホームルームや委員会、生徒会の役員等について、他者と協働し達成感を味わわせるシティズンシップ教育を推進する。	B		

		キャリア・パスポートの作成	・ホームルーム活動を通して、生徒が将来の進路を見据え、目的意識をもてるよう、キャリア・パスポートの活用法を指導する。	B	B	
進路指導	希望する進路の実現	進学指導の充実	・生徒との面談及び保護者への連絡を密にし、またICTを活用し進学・就職への情報提供を行い、進路意識の高揚や進路決定の実現を図る。	B	B	・進路ガイダンス等を各年次において適時実施し、進路実現への意識を高める。 ・進学希望者に対し、課外活動・面接指導を行い、進路実現への力を養う。 ・就職希望者に対し、入社試験に耐えうるコミュニケーション力や学力を養成する。 ・進路ガイダンス以外の時も地元をはじめ各企業の情報提供を行う。
			・講話やガイダンスの場面を活かして、聞く力、表現する力などコミュニケーション能力の育成をはかる。	B		
	就職指導の充実	・進学希望の生徒に課外指導等を企画し、実力の養成を図ると共に希望する進路実現を目指す。	B			
		・スタディサプリ等の一層の活用を行い、より効果的な進学指導の在り方を検討・継続して進め、志望する学校への合格を目指す。	B			
		・総合型選抜や推薦入試での合格力を高めるために、小論文や面接指導を強化する。	A			
		・1年次での体験活動や2年次での企業説明会を企画し、進路選択の一助とする。	B			
		・主権者として社会を見つめ、主体的に受験企業選択を行えるよう、情報提供を書類だけでなくICTを活用して行い、個人が機動的な情報収集・分析を行えるようにする。	A			
		・社会人としてのマナーを習得するなど、社会人準備講座を企画し、内定後の指導を充実させる。	A			
	保健厚生	生徒と教職員の心身の健康の増進	学習環境の整備	・学校環境の安全点検を行い、安全で安心のできる学校生活を推進する。		
・保健室の正しい利用と効果的な運営に努める。				A		
・定期健康診断等の各種検査においては円滑で完全な実施に努める。				A		
・感染流行時等の予防・衛生活動や精神面でのケアを推進する。				A		
			・より現実に則した防災避難訓練を実施し、非常時の安全確保に努める。	A		
			・教育相談における担任・学年及び生徒指導部との連携とバックアップの体制を整える。	A		
			・生徒指導部と連携し、専門家の性教育・薬物乱用防止教育・禁煙教育等を実施する。	A		
			・環境美化と汚さないことの重要性を理解させる。	B		
			・清掃の徹底と適切なゴミの分別を目指す。	B		
			・清掃用具の管理点検と補充に努め、環境美化を推進する。	B		
			・暖房および換気用具の安全な使用と事故防止に努める。	A		
			図書	図書館利用の増進	・生徒の希望図書を拡充し魅力ある本の選定に努め、図書館の利用率を向上させる。	A
・図書委員会の活動(「図書だより」の発行や書架整理など)を活発にする。		A				
			・読書週間を通して、読書に親しみ、楽しむ生徒の増加を図る。	B		
	・魅力ある図書館の雰囲気をつくる。		A			
		・授業等における視聴覚教材の活用を推進する。	B			
		・PTA活動を通して開かれた学校づくりを推進する	B			
渉外	PTA活動を通して開かれた学校づくりを推進する	・各種委員会の意義を周知し実施し、自主的な参加を図る。	B			
		・PTA総会や各行事への参加では感染症対策に配慮し、安心して活動ができるようにする。	A			
		・PTA活動を通して保護者と職員間との連携を重視し、学校教育への理解を求める。	A			
		・広報活動を適宜行いPTA活動や本校の教育活動の様子を知らせ、開かれた学校づくりを推進する。	B			
		・PTA行事を積極的に活用し、保護者との関係構築を図る。				

年次	1年次	基本的な生活習慣の確立	・規則正しい生活習慣と社会的ルールを身に付ける。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒は基本的な生活習慣の育成はできている。時間を守り、規則を守ることはできている。 遅刻・早退・欠席数も多くはない。 保護者の協力と担任の指導により、欠席連絡はとれている。 少数の生徒が服装・頭髪の乱れ、遅刻などがあるが、対教師暴言については0件。指導拒否などは少数であった。 SNSトラブルの発生件数は多く、教員が把握していないものもあると思われる。 生徒の相談にのることは大切だが、教員の時間的・人間的な問題もあり、すべて把握することは難しい。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの増員を要望したい。
			・日常生活や高校生活の基本を身に付けさせ、欠席、遅刻、早退を防止する。	B		
			・礼儀正しく、約束、規則を守る誠実で規範意識の高い生徒を育てる。	B		
			・服装、頭髪指導を継続的に行い、高校生らしい身だしなみを身に付けさせる。	C		
		学習指導の充実	・授業に集中させ、学力の向上を図る。	B		
			・個に応じたきめ細かな指導に努める。	C		
			・オンライン教材を活用して、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	B		
			・ICT機材を活用し、自ら学び、自ら考える主体的な学習姿勢を育てる。	B		
		生徒指導の充実	・日常の観察や面談を通し、生徒の実態把握に努め、生徒指導に生かす。	B		
			・小さな変化を見逃さず、早めの指導、個に応じたきめ細かな指導を行う。	B		
			・保護者と連携した指導を行い、問題行動を未然に防ぐ。	B		
		心の教育の充実	・他人を思いやる心を大切にし、安全で安心のできる落ち着いた生活環境を作る。	B		
			・毎日の清掃より、勤労と奉仕の精神を育む。	B		
			・情緒の安定に努め、自己を抑制する能力を高める。	B		
	・「道徳」の授業を充実させることにより、豊かな心の育成に努める。		B			
	進路指導の充実	・「産業社会と人間」を中心に、自己を探求する姿勢を培い、進路実現に向けて段階的に指導していく。	B			
		・課外授業やスタディサプリ等の課題により実践力養成に努める。	B			
		・挨拶、言葉遣いなどの基本を身に付け、コミュニケーション能力を高める。	B			
	部活動・学校行事・HR活動の活性化	・体育祭やクラスマッチ等の行事に積極的にかかわることで、協調性を養い、達成感を体験させる。	A			
		・部活動や委員会活動に積極的に参加することで、学校生活をより充実させる。	B			
・クラスでの役割を、責任を持って実施させることにより、ホームルームの一員としての自覚を持たせる。		B				
円滑な年次運営	・年次会や年次朝会等で情報交換を密にし、協力して指導にあたる。	B	B			
2年次	基本的な生活習慣の確立	・規則正しい生活習慣を身に付けさせ、特に時間のけじめをつけ欠席・遅刻・早退の防止に努める。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行などの学校行事を成功させることができた。 遅刻・欠席をする生徒の数を改善していかなければならない。 大きな生徒事故は少なくすることができた。 スタディサプリの応用、進路行事の充実を図ることができている。進路実現の年次に向け、継続をしていきたい。 円滑な年次運営をすることができた。継続していきたい。 	
		・他人に迷惑をかけないという社会的ルールを身に付けさせる。	B			
		・元気よく挨拶し、礼儀正しく、約束を守り、嘘をつかない誠実な生徒育成を進める。	C			
		・頭髪服装指導を継続的に行い、社会で通用する身だしなみを身に付けさせる。	B			
	学習指導の充実	・授業に集中し、振り返りの時間を充実させ、学力の向上を図る。	B			
		・自己管理能力を向上させる。個に応じた指導に努める。	B			
		・家庭学習、本や新聞を読む習慣を付けさせる。	C			
		・自ら学び、自ら考える主体的な学習姿勢を育てる。	B			
	生徒指導の充実	・日常の観察や面接を通し、小さなサインを見逃さないきめ細かな指導を行う。	A			
		・家庭との連携を密にして、信頼関係を築く。	A			
		・欠席・遅刻・早退の多い生徒には、保護者と連携し、早めの指導を心がける。	B			
	心の教育の充実	・マナー教育を推進し、他人を思いやる心を育成して、安全で安心のできる落ち着いた生活環境をつくる。	C			
		・修学旅行を通じて、平和教育の充実を図る。	A			B

		・毎日の清掃指導を中心に、環境に配慮できる心を育む。	B		
		・困難に状況でもあきらめない「我慢する心」を育てる。	B		
	進路指導の充実	・進路指導部と連携を密に取り、キャリア・パスポートを活用し、進路実現に向けて段階的な指導を進める。	B	B	
		・意欲旺盛な生徒への課外指導を行い、実力養成に努める。	B		
		・コミュニケーション力の向上をめざす。	B		
			B		
	部活動・学校行事・HR活動の活性化	・各行事への積極的な参加を促し、協調性を養い、達成感を体験させる。	A	B	
		・部活動に積極的に参加することで、学校生活を豊かにする。	B		
	円滑な年次運営	・年次会等で情報交換を密にし、学年全体が共通理解のもとに連携して指導に当たる。	A	A	
3年次	基本的な生活習慣の確立	・基本的な生活習慣及び社会的ルールや社会生活に必要なマナーを身に付けさせる。	A	B	・年次会での情報交換や、普段の連携を密にし、年次全体での情報共有を元に、円滑に指導ができた。 ・遠足や体育祭など、行事は少ないながら、生徒たちが話し合い、自ら運営に関わることができた。 ・多少の頭髪服装の乱れはあったが、協力して、継続的に生徒指導に当たることができた。 ・遅刻欠席の多い生徒がいて、さらなる改善が必要である。
		・時間のけじめを付けさせるとともに、欠席・A遅刻・早退の防止に努める。	B		
		・礼儀正しく、誠実で規範意識の高い生徒を育てる。	B		
		・頭髪服装指導を継続的に行い、社会で通用する身だしなみを身に付けさせる。	B		
	学習指導の充実	・授業に集中させ、基礎学力の定着や資格取得に取り組ませる。	A	B	
		・個に応じたきめ細かな指導に努める。	A		
		・家庭学習の習慣を身に付けさせる。	B		
		・自ら学び、自ら考える主体的な学習姿勢を育てる。	B		
	生徒指導の充実	・日常の観察や面接を通し、生徒の実態把握に努め、小さなサインを見逃さないきめ細かな指導を行う。	A	A	
		・家庭との連携を密にして、信頼関係を築く。	A		
		・欠席・遅刻・早退の多い生徒には、早めの指導を行う。	A		
	心の教育の充実	・思いやりのある豊かな心を育成して、安全で安心のできる落ち着いた生活環境をつくる。	A	A	
		・最上級生であることを自覚させ、下級生の模範となるような言葉遣いや行動が取れるよう、年次集会等で意識付けを図る。	A		
		・共有空間の使い方を意識させ、生活空間をきれいにする心を育む。	B		
		・将来、就業するにあたって最も必要となる「我慢する心」を育てる。	B		
	進路指導の充実	・進路指導部と連携を密に取り、キャリア・パスポートを活用し、進路実現に向けて段階的な指導を進める。	B	A	
		・学力向上を希望する生徒への課外指導や学習アドバイスをを行い、実力養成に努める。	A		
		・資格取得を推奨し、自己啓発および進路実現の一助となるようにする。	A		
		・挨拶・身だしなみ・言葉遣いなどの基本を定着させ、さらにコミュニケーション能力を高める。	A		
	部活動・学校行事・HR活動の活性化	・各行事の主体的な計画や参加により協調性を養い、帰属意識を高め、行事を成功させることにより、個々の成長を促す。	A	A	
・部活動や委員会活動に積極的に参加させ、学校生活をより充実させる。		B			
円滑な学年運営のための働き方改革とコンプライアンスの徹底	・年次会等で情報交換を密にし、学年全体が共通理解のもとに連携して指導に当たる。	A	A		
	・学年行事の見直しを行い、業務効率化を図る。	A			
	・長時間労働を無くすとともに、教員間の信頼関係を育み、心身ともに健康に働けるように健康管理に努める。	B			

評価【5段階評価】 A：達成した(達成率75%以上) B：ほぼ達成した(達成率50～74%) C：達成やや不十分(達成率25～49%) D：達成不十分(達成率24%以下) E：できない